

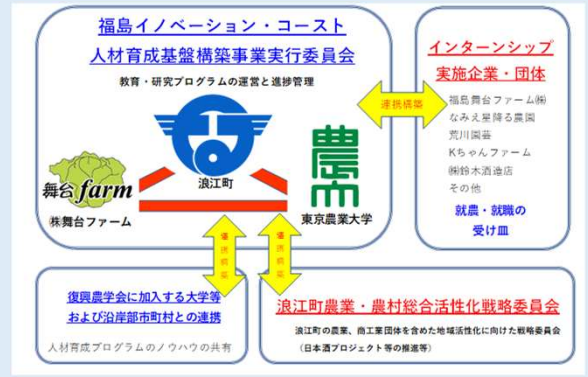
インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト

●事業概要

・本学では2018年度から20年度にかけて、「福島県浪江町の農業“新興”に向けた取り組み」として、就農拡大・スマート農業・6次産業化に向けた現地活動の実績から浪江町内への**就職者2名を輩出**した。しかし、町民の避難先からの帰還意向は低く、地域経済を再生させるには、更なる移住・定住などの人材定着が課題である。そこで本事業では、**インターンシップ型の教育研究プログラム**を実施し、地域企業等との連携によるプロジェクトを展開し、農村地域活性化に取り組む。

●連携体制の構築と5年間の人材育成目標

・本事業の連携自治体である浪江町、農業生産法人の**(株)舞台ファーム**とコアな連携体制をとり、教育・研究プログラムの運営と進捗管理を行う。とくに将来的な就農や就職の受け皿となるインターンシップ先との連携を進め、日本酒開発などの商品開発に向けた地域企業との連携を行う。
 ・浪江町への新規就農および地域企業への就職実績として**5年間で9名の人材輩出**を目指す。また、本事業に参画する学生を「復興支援サポーター」として認定し、将来的な関係人口として**年間20名**を育成する。



本プロジェクトの連携体制

●今年度までの活動内容と課題

・事業の1年目（2021年度）は、コロナ禍の影響もあり、現地での活動が制限されるなか、「復興浪江学」「新規就農実践講座」「一般農業実習プログラム」「特別インターン」「特別実習プロジェクト」を実施し、「復興支援サポーター」を**28名輩出**することができた。
 ・事業の2年目（2022年度）は、コロナへの対策をしっかりと行ったうえで、地域での活動を活発化させており、現在までに「一般農業実習プログラム」「特別実習プロジェクト」「復興浪江学」「特別インターン」などの実習を実施している。登録学生は**260名程**となっており、一般体験実習の田植えでは**40人の定員**に対し、その**2倍の応募**があり抽選となるほど人気の実習となった。また、福島県出身者なども多く、将来福島のために何かしたいという学生も多く参加している。縁がない学生も、継続的に浪江町の応援隊になりたいという学生が**8割ほど**をしめる。

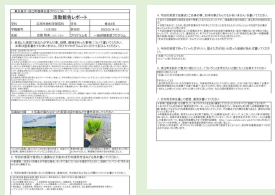


各教員が専門分野で支援する特別実習プロジェクトでは、花卉支援、農業支援（ペピーノ、タマネギなど）、里山景観支援（景観植物の生産、地域活動など）を行っている。地域の要望も叶える実習である。



・5月に行われた一般農業実習では、浪江の現状と、魅力を学び、浪江復興米の商品企画のWS、田植えなどを体験し、学生たちは「浪江のために何かしたい」と帰りのバスでも熱く語り合っていた。

・今年度よりレポート形式を拡充し、学生の声や感想、要望などをアフターフォローできる形式にした。



・特別インターン実習では、浪江町の協力農家、企業などに少人数の学生を送り、2泊3日から3泊4日の作業のお手伝いさせていただいている。受け入れ先、浪江町役場の手厚い支援のもと満足度の高い実習となっている。今年は、11名の学生がプロジェクトを立ち上げ、都内やWebで浪江町のPR活動も行う予定である。

●3年目の事業内容および取り組みの方向性

・事業の3年目（2023年度）は、人材育成のための教育・研究プログラム活動に加えて、地域産品を活用した加工・商品開発プロジェクトを展開し、農村地域活性化に取り組む。また、農業の担い手育成に向けた沿岸地域との連携に取り組む。